

第二十三回前田純孝賞学生短歌コンクール入賞作品一覧

【中高校生の部】

前田純孝賞

溶接でむかう火花に驚きて吹き出す汗にメガネを濡らす

鹿児島県立鹿児島工業高等学校

二年 山之口 駿

【選評】

授業で、はじめて溶接を体験したときの緊張感をうたっています。鉄を溶かす何千度もの火花をまさに自分がコントロールするわけですから、汗が噴き出すのも当然です。読者もバーナーの迫力が実感できるような臨場感です。

冬の朝市場に響くせりの声活気にあふれる甲羅の音色

兵庫県立浜坂高等学校

二年 山本楽南

【選評】

浜坂の特産品である松葉ガニのせり市に取材した作。表現上のポイントは「甲羅の音色」です。寒い寒い冬の早朝、男たちのせりの声のあいだに、カニの甲羅がぶつかり合う音が聞こえてくるのです。ドラマチックですね。

準前田純孝賞

田水張ればでんと構えた常念岳安曇野の春足音立てる

長野県穂高商業高等学校

一年 岩淵 遥

献血を終えて誰かのいのちまでつながる血潮を思ふ春の日

埼玉県立上尾南高等学校

三年 橋本 開

「あと三周」「ファイト」の声は秋空へ足を持たない魚のようだ

新潟県町立浜坂中学校

二年 田中かのん

化学式モルパーリットルともたちと試行錯誤す理科講義室

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 岸田七瑠

新潟県町長賞

あいさつはすれちがうたひこんにちは同じ言葉のみまわり畑

大阪府立摂津高等学校

二年 松本昇真

雪景色そこにひとりのおばあちゃんおはようといひ歩きだす

岐阜県美濃加茂市立西中学校

三年 佐橋心風

むねの奥心丸ごと奪われてぽっかり空いたわたしのからだ

埼玉県立越生高等学校

二年 山田麗花

運動部に入るとみんな髪を切るポニーテールはもうわたしだけ

宮城県名取市立第二中学校

二年 小笠原令夏

バスの中夜遅くなりウトウトと眠たい僕は一人ぼっちだ

愛知県立名古屋龍華学校

一年 三宅聖太

神輿乗り十二単を着る我に奈良井を渡る千年の風

長野県松本蟻ヶ崎高等学校

三年 相澤 愛

テスト前好物並ぶ食卓にふんばれの声聞こえる気がした

大阪教育大学附属平野中学校

二年 服部陽果璃

袖口のほつれが多いセーラーはともに過こした私の戦友

兵庫県加古川市立神吉中学校

三年 礪野 樹

不意打ちで君が隣の席にいるクレスシエンドで高鳴る鼓動

愛知県クラーク記念国際高等学校名古屋キャンパス

三年 本谷優果

数学の雪の積もった1ページ先生に送る遭難信号

兵庫県立浜坂高等学校

二年 藤本和颯

新温泉町教育長賞

卒業に近づくにつれてついてくる「最後」という文字心に響く

岐阜県美濃加茂市立西中学校

三年 田脇菜乃

御岳山辺一面セミが死ぬ残りわずかの夏休みかな

東京電機大学中学校

二年 桑田夏巻

金曜日疲れがたまり動けない夢の中まで簿記が出てくる

長野県穂高商業高等学校

一年 太田 萌

けんかして謝れず今悔いている心のどこかいつも雨だな

宮城県名取市立第二中学校

二年 佐藤貫太

いにしへの武将走りしこの山をほくらも駆ける夏空の下

山口県立德山高等学校

三年 原田海世

見渡せばうつすら寂れた街灯のつのが早い冬の夜の道

青森県むつ市立むつ中学校

一年 相内 鈴

しんしんとわが故郷に雪積もりこの足跡はどこへゆくのか

大阪教育大学附属平野中学校

三年 中原俊亮

押し切るの意味を聞かれて戸惑った留学生の素朴な問いに

佐賀県早稲田佐賀高等学校

一年 宮島健悟

言葉では表せられないこの想いトランペットにそっと乗せるよ

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 濱田果歩

冬がきて白いうつろさがびよんぴよんと白い世界に足あとのこす

兵庫県立浜坂高等学校

一年 西澤心真

黒板の乾いた文字を書き写し冷めた気持ちで頭脳にそそぐ

大阪府立摂津高等学校

二年

村山達哉

柴犬の可愛いお尻を追いかけて秋空の下野原をかける

埼玉県立越生高等学校

二年

安田涼葉

四階の窓から見えるこの空は昨日の私を吹き飛ばす青

長野県穂高商業高等学校

一年

徳竹麻菜夏

初めての改札口を通ったら広がっている知らない世界

宮城県名取市立第二中学校

二年

八代実果

これからの三年間をよろしくと制服に言う鏡の世界

青森県むつ市立むつ中学校

一年

中村琴葉

コンクールのこの七分にかけてきた一音一音気持ちが入る

埼玉県立越谷南高等学校

一年

白井優子

通学路朝のふく風つめたくてはく息白くあなたと笑っ

埼玉県小川町立樺台中学校

二年

塩谷優奈

始まりは僕の気持ちを追いついて終わりは君が離れていって

長野県松本蟻ヶ崎高等学校

三年

石川海舟

部活にて絵を見絵を描き考える何が足りない私の絵には

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

笹田真菜恵

空と海境界線がなくなった最後に残る漁船の明かり

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

三年

山口りほ

佳作

言うことも聞くこともなく分かり合っ君の手にある温いココア

大阪府立摂津高等学校

二年

松木 陽

気がついた見上げてた母追いかしたこんな目線で見ていたなんて

岐阜県美濃加茂市立西中学校

三年

藤本亮太

私見て何かいいことあったかと尋ねてくれる校長先生

岐阜県美濃加茂市立西中学校

三年

渡辺留妃

弁当は宝箱なり見映え良く味つけも良き母の手作り

福井県立若狭高等学校

一年

松原絃爾

夏休み祖父と巡る負の遺跡目の前にして平和を願っ

東京電機大学中学校

二年

池田夏基

夏祭りふえのねびびく山里にはだに感じる秋のおとずれ

東京電機大学中学校

二年

木村匡寛

夕間にジョイント音が響き出すS字の鉄路光が近づく	埼玉県立越生高等学校	二年	宇井一輝
帰り道初めてつないだあなたの手誰とも違つ温もり感じる	大阪府立東淀川高等学校	三年	森 匠
夕暮れに秋刀魚の匂う食卓に家族集まる日常が好き	長野県穂高商業高等学校	一年	竹之内勇志
十一月の時雨を聞いて君を待つ電車の音が近づいてくる	長野県穂高商業高等学校	一年	佐原美憂良
カルテットみんなでつなく音符たち思いを一つに曲を旅する	長野県穂高商業高等学校	一年	中野芽維
突然に言葉のナイフを向けられて傷ついたのでに笑う友達	宮城県名取市立第二中学校	二年	郷沙智子
夏の川向こうの端まで競走だ飛び出す石が水を切り進む	宮崎県西米良村立西米良中学校	三年	中武碧唯
オレンジのスパイクシューズで走るオレ入道雲をつきやぶり進め	愛知県立名古屋龍華学校	一年	伊藤俊貴
夕飯のおいしいにおいを運ぶ風いつも順風とは限らない	青森県むつ市立むつ中学校	一年	気仙 凜
朝起きて机の上に置き手紙なぜか落ち着く我が母の文字	埼玉県小川町立櫻台中学校	三年	轟莉里花
頑張れと背中をたたく君の手のわずかな震えの心強さよ	長野県松本蟻ヶ崎高等学校	三年	百瀬莉子
この思い伝えた後の少しの間僕にとっては長きひと時	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	一年	石塚優樹
あと一本邪心を捨てて弦を引き静かな射場に弦の音響く	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	一年	梅田知樹
試合中一つに視線が集まった僕のおいた楯円球に	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	一年	岸本一心
配線図何回も書き線つなく僕らの想いもつないでいけ	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	二年	斜木悠真
文化祭裏方ひとりひっそりと劇を見守り成功祈る	大阪教育大学附属平野中学校	二年	河西祥智
夏祭り声に合わさるカコカコと音が楽しいおろしたての下駄	大阪教育大学附属平野中学校	三年	西川綾乃
踏みきり板ひったり歩幅で大跳躍 8・5のリズムで静寂やぶる	兵庫県加古川市立神吉中学校	三年	高瀬理沙

帰り道小さな光見つけたよ、蛍が君を探しているよ

腕をふりひたすら足を前に出し目指すはひとつ自己新記録

まだ見えぬ未来を想う僕たちは手のひらサイズの地球儀を見る

競走だ父とセミ取り今日だけは少年二人戦友になる

くい違ふ私とあなたでもきつとあなたの意見も正しいのかな

おととつと歩くと足が動き出すタップダンスの浜坂の冬

バスドラのビートを身体で受けとめて広い世界へはばたく歌姫カナリア

昼休みガールズトーク私には少し眩しく雨の図書館室

冷えた夜深い溜め息ひとつ吐くもやもや淀んでもやもや消えて

自分とは人とは一体何だろう数式を前に思考は横へ

踏切待ち金本犀の香がして何とはなしに胸が騒いだ

兵庫県加古川市立神吉中学校

三年 蓬萊千里

佐賀県早稲田佐賀高等学校

一年 大村知仁

福岡県立筑紫丘高等学校

二年 田中 凜

宮崎県宮崎学園高等学校

三年 川島菜織

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校

二年 山本奈南

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

三年 上田涼翔

大阪府立夕陽丘高等学校

一年 幕内実咲

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 佐藤優奈

兵庫県立浜坂高等学校

一年 坂本智華

兵庫県立浜坂高等学校

一年 西岡海音

兵庫県立浜坂高等学校

二年 諸道貫太

【大学生の部】

前田純孝賞

目指したい話しやすさの一番を看護の上で大切なこと

川崎医療短期大学

一年

奥田裕子

【選評】

初句と二・三句が倒置されていて、作者の思いの強さが読者に真つ直ぐに伝わる工夫がされています。介護されている人にとつて、知識や技術を持つ者ではなく、話しやすい者が一番身近で一番頼りになる、ということを作者は理解したのです。すばらしいですね。

準前田純孝賞

目に映る譜面や鍵盤モノクロでホロンと鳴れば色づいてゆく

頌栄短期大学

二年

重久知歩

貸したまま帰らずにいる鮮やかな思い出の詰まるサクラクレパス

青山学院大学

三年

阿部拓樹

新温泉町長賞

不採用の通知で蓋するカップ麺のびゆく夜半に割り箸を割る

就美大学

四年

大西愛奈

志「こつするべき」と考えるドラマのナース我が身のこたく

川崎医療短期大学

一年

木曾田遼子

専門の言葉と知識増えていき実感が湧く自分の未来

川崎医療短期大学

一年

豊嶋皐介

入るのに苦労しても女子多く門も肩身も狭きとこかな

頌栄短期大学

二年

揚野大五郎

「ネコでしようっ」「指さす君が笑つから」「そつだよ」「隣に描く一匹め

広島大学

四年

杉田佳凜

新温泉町教育長賞

羽根雲や積み上げられた賢治論赤ペンを手に空に遊べり

就美大学

四年

井上菜月

がつがつと餌を求める肉食獣かわいいペットわたしのカメキチ

川崎医療短期大学

一年

丸山美咲

ページェントわたしはヨセフ大役に役になりきる難しさを知る

頌栄短期大学

二年

川野朱理

就活の面接練習迷走で自分が何か分からなくなる

頌栄短期大学

二年

小西瑞歩

神戸新聞社賞

ありふれた名字で良かったあなたから下の名前で呼んでもらえる

東北大学

二年

佐藤千晶

ほくろ

木堂の「話せば分かる」の信念の姿を残せる庭瀬の町並み

にわせ

就実大学

二年

矢尾明子

最近はお演者より医療器具に釘付けになる医療ドラマで

川崎医療短期大学

一年

岡志保

何回も寝坊をしたがあきらめず何度も坂を登り続けた

頌栄短期大学

二年

坂本彩未

保育科の実習のつかれ吹き飛ばす先生だいきまほうのことば

頌栄短期大学

二年

村上茉優

改札が吸ってはき出す人の群れ平日だけの砂時計のよう

青山学院大学

二年

茂木綾音

佳作

全力でライブ楽しんだ翌日は体が痛い心が寂しい

川崎医療短期大学

一年

北野桃夏

オレンジペン勉強するたび減っていく看護の知識は増えているかな

川崎医療短期大学

一年

澄田祐華

暑い夏フェスの季節やってきた見せつけてくれROCKなハート

川崎医療短期大学

一年

天願珠未歌

疾患名症状の名前組織名専門用語の海に飲まれる

川崎医療短期大学

一年

林細美

やめたいと何度も願った実習ももう終わりだよ嬉し悲しい

頌栄短期大学

二年

古田優希

「落ちちゃった」励ます言葉は見つからずペンだこ撫でる指を見ていた

青山学院大学

二年

柳原美月

嫌なものも何度か切らせてしまったね幼馴染のハサミに詫言ひる

青山学院大学

三年

草薙由莉

旅先の湯舟で語った住む場所も年も異なるはだかのつき合い

東京大学

三年

比護祐介

うぶすな
産土神の森色付きて、
インヒヤリ音色引き連れ神輿は巡る

東北大学 大学院

一年

塚田悠太

学校をやめるとLINE送られて数分考え頑張れと打つ
ライン

京都伝統工芸大学校

一年

青木萌

【学校表彰の部】

◆学校特別賞

川崎医療短期大学 頌栄短期大学 兵庫県立浜坂高等学校
長野県穂高商業高等学校 大阪府立夕陽丘高等学校

◆学校賞

兵庫県加古川市立神吉中学校 大阪教育大学附属平野中学校 鹿児島県立鹿児島工業高等学校
岐阜県美濃加茂市立西中学校 東京電機大学中学校